

# 算命学中庸

## 【初年】 30回目

30回目の授業はこのページからです。

### 授業科目 【十大主星特性②】

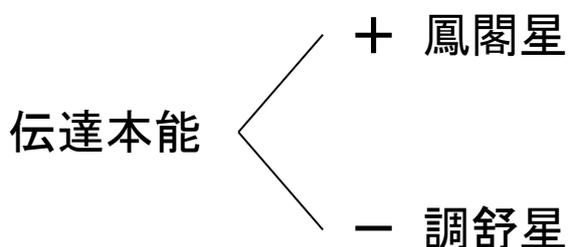
参考：特性〔そのものが他と異なって特に備えもつ特有の性質〕

・【初年】 30回目 【十大主星特性②】 01

#### ➡ 鳳閣星・調舒星

ほうかくせい ちょうじょせい  
鳳閣星と調舒星は伝達本能の星です。

伝達本能にも（陽）と（陰）があります。



ちなみに、鳳閣星という文字を省略して、ただ 鳳 とだけ書くことが多いです。

これは十大主星すべてにいえませう。

調舒星は 調 とだけ書くわけだ。

貫索星なら 貫 とだけ、石門星なら 石 とだけ書きます。

⇒『伝達本能』の伝達というのは、なにかを相手に、伝えようとする本能だ。

自分の考えとか、自分の気持ち、あるいは自分の知識とか、それらを誰かに伝えたいとする本能だ。

楽しいことがあれば「こんな楽しいことがあったのよ」と誰かに話したくなるでしょう。

いま・自分が苦しい<sup>おも</sup>想いをしていれば、苦しい胸の内を誰かにわかってもらいたい。そういうこともあるでしょう。それも伝達本能だ。

(陽) と (陰) は、主体性のあるほうが (陽) という原則がありますから、どの本能も主体性のあるほうが (陽) として考えていくわけだ。

⇒ 伝達本能をもう少し深く考えます。

“怒ったとき”のことを想像していただきたいのです。

〔たとえば〕**Ⓐ**に怒りをおぼえたとき、あるいは**Ⓑ**に不満を抱いたときなど、その怒りと不満を**Ⓐ**と**Ⓑ**に言いたい、ぶつけたい、そのようにおもうときもあるでしょう。

〔なにかを伝える……〕その手段・方法にも大きく分けて2種類の伝え方があるといえます。

① 怒ったとき、相手に直接文句をいう。

「なんでこんなことしたのよ」とか「こんなふうにして、すごく不愉快よ」とか、そのままストレートに相手に文句をいう。このような怒り方があります。

② 文句をいわないけど ⇒ 口をきかない

当人が口をきかないので、相手から「なに怒ってるの」といわれて、「怒ってなんかいないわ」とこたえていながら、怒っているわけです。

いかがですか……このような怒り方ってありますよね。

怒っているとき、「わたし怒ってるのよ」と、直接いう場合もあれば――。

実際は怒っているけど、それを表現しない、口をきかないで黙り込んだり、あるいは、相手から訊かれても、わざと違うことをこたえる。

というような怒り方があるかとおもいます。

両方の怒り方を経験したことありませんか？

この“怒り方”を陰陽で分けた場合、主体性がある怒り方はどちらになるでしょう。

そう、直接的な怒り方です。

主体性のあるほうが 十

主体性のないほうが 一 です。

“怒ったとき”直接相手に対して、自分がおもったとおり、感じたとおりに文句をいう。

ストレートに感情を表現する怒り方は主体性があります。

それがよい、悪いは論じていませんよ。

相手から話しかけられてもこたえない。

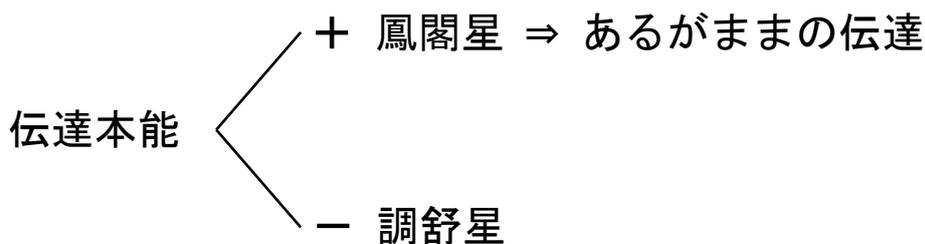
怒っているのに、怒ってないとかたえる。

このような怒り方に主体性はないわけです。

ここでは“怒り方”を述べただけです。鳳閣星・調舒星の人は怒りっぽい。という意味ではないのです。

怒ったときに、直接相手に文句をいう状態は、相手に対して、自分のあるがままの気持ちを、相手に伝えようとしている姿と考えられます。

そうしますと、鳳閣星には主体性があります。



怒ったときは、あるがままに怒る。

嬉しいときは、あるがままに喜ぶ。

やる気がないときは、あからさまに態度・仕草であらわす。

鳳閣星は喜怒哀楽の感情をそのまま表現する傾向があります。

このような直接的伝達が鳳閣星です。

☞ 調舒星の質は、怒っているのに“怒っている”とはいわないのです。

文句をいわない、口をきかない、わざと違うことを<sup>こた</sup>応えたりします。そういう怒り方です。

表現がチョット難しいのですが、

**調舒星 ⇒ あるがままでない伝達**

というふうに考えています。

☞ これらは鳳閣星のあと、調舒星のところでもう少し解説します。

鳳閣星（陽）の伝達は、あるがまま相手に伝えようとする。

調舒星（陰）の伝達は、あるがままでない伝達をする。

このような違いを、まずは頭に入れておいてください。

参考：表現〔心的状態、その過程を外面的・感性的形象として表すこと〕

それでは〔鳳閣星〕から始めます ➡

## ☆ 鳳閣星

ほうかくせい  
鳳閣星 ⇒ 伝達（陽）

鳳閣星は伝達の陽です。

“あるがまま（存在するとおり）の伝達”と考えています。

鳳閣星 ⇒ あるがままに伝える

あるがままの伝達ですから、ありのまま伝えようとしします。  
自分の気持ちや考えに正直で、存在する状態の通りに表現しようとしします。

何かを伝えるときに、見たとおりに伝達するという主体性があります。

鳳閣星はあるがままに自分の気持ちを出そうとししますから、自然な生き方の姿にもなって来ると考えています。

自分の気持ちに正直で、あるがまま自然に生きようとする。

自分の気持ちに正直な星で、そのような性格の人になります。と考えています。

やりたくなければやらない。気持ちに乗ってくれば一生懸命やります。わざとそうにしているわけではありません。

### 無理をしない・成行きまかせ

無理をせず、成行きにまかせてやっていけばいい……。

基本的にそういう質をもっています。

無理にやる気を引き出そうとはしないと云えます。

(自分の気持ち・想いと異なる自分を無理して出そうとしません)

このような性格の人ですから、環境に適応します。

〔たとえば〕寒いところに行けば、寒いなりに自然に則して生きる。

暑いところに行けば、暑いなりにやっていけばいい。

そういう考え方・生き方が出来る人です。

お金が無ければ、なんとか工夫してやっていきます。

お金があれば、あるなりの生活をしていくタイプの人です。

このことは鳳閣星に限ったことではないとおもいますが、鳳閣星の場合は、ほかの星に比べて、自分のおかれた境遇に神経を消耗させないといえます。

鳳閣星はほかの星に比べて、自分のおかれた境遇・環境に神経質にならないといえますから、人体図に鳳閣星がいくつもあるとか、主星が鳳閣星の人は細かいことを気にしないで、どのような環境におかれても生きてゆけます。

### 環境に順応しやすい

田舎に行けば、無理せずに田舎暮らしに馴染め<sup>なじ</sup>ます。  
都会であれば、都会の生活に馴染め<sup>なじ</sup>ます。  
自然体で環境に適応できる質といえます。

### 楽天的〔なんとかなるさ……という考え方ができる〕

このような考え方ができるのは、鳳閣星をもつ人の強さでもあるのです。

鳳閣星をもっていて、幸せな人生を歩んでいる人もいますし、苦しい状況に置かれている人もいます。

鳳閣星は苦しい状況とか、悲惨なことが起こったりして、人生が思うように進まない状況におかれても、なんとかなるよ。とおもえる人なのです。

苦しいとき・惨めで不幸なときほど、このような心境になります。それができるのは鳳閣星の強さであり特徴です。

もっと極端に言えば「どうしようもなければ死ぬだけだ」  
そのくらいの開き直りができる星です。

そうなると、いかに苦しいときでも乗り越えられます。

自分の気持ちに正直だとか、無理をしないとか、成行きまかせとか、環境に順応しやすいとか、最後はどうにかなるさ、そのような考え方ができる人という意味で、さまざま<sup>あ</sup>挙げたわけですが、これらのことを一言でまとめますと、「のんびり星」といわれています。

## のんびり

成行きまかせで、無理せず、自然にやっ行って行こうとする人  
ですから、のんびりした性格です。

無理せず自然の成行きまかせで、自分の気持ちに正直な質  
というふう<sup>とら</sup>に捉えてください。

これは“怠け者”とは違いますよ。

〔たとえば〕どうしても、仕事を終わらせなくてはならない事情があり、その締め切りが明日までだとします。

締め切りが明日に迫っているのに、「やる気がせず、気持ちものってこない……」となると、鳳閣星に限ったことではなく、だれでも切羽詰まってきます。

鳳閣星は本当のギリギリになるまでやろうとしません。

まわりの方は〔なんとまあ、のんびりした人〕と、おもうでしょうし、首を傾げるでしょう。

しかし、自分のやる気が乗ってきたときは、一生懸命やります。怠け者とはチョット違うわけです。

鳳閣星がある人のすべてがそうだとは言いきれませんが、小説家とかで、原稿がいつも遅れる場合は、締め切り日が迫ってくると、編集者が家に押しかけたという話は、昔はよくあったそうですが、物書きには鳳閣星をもつ人が多いからでしょう。

「成行きまかせでやっていけばいい」そのような考え方・気持ちを内在している星ですから、まわりの人から見ると、のんびりした人、あるいは温厚なタイプに見えます。

外面・表面的には“のほほん”としていて、悪くいえば、ちょっとボーッとした人と、そのような印象も受けるかもしれません。しかし観察力は鋭いです。

**観察力の鋭さをもつ ⇒ まわりからは見えにくい**

なにかを伝えようとする星なので、<sup>びょうしゃ</sup>描写は上手です。ほかの星よりも、表現力のある星です。

**表現力はすぐれている**

しゃべって伝える、ものを書いて伝えるにしても、客観的に表現する力が、ほかの星よりすぐれています。

表現力が優れているということは、事象を的確にとらえて描写できるわけですから、観察力がなければできません。ピント外れの表現をしていたのでは、表現がすぐれているとはいえませんよね。

なにかを観察して、その事象の中心点・焦点をきっちりと<sup>つか</sup>掴みます。

その感性の鋭さをまわりからは見えにくいのです。

内面の神経は細かくて鋭いです。

外界の印象を内に捉えて、ものを感じとるチカラは鋭敏で  
すから、ものの描写をゆたかに表現できます。

そういう能力は秀でています。

⇒ 鳳閣星を人物になおすと、子供の星という意味がありま  
す。星そのものも、子供っぽい面があります。

**子供の星 ⇒ 子どもっぽい面をもつ**

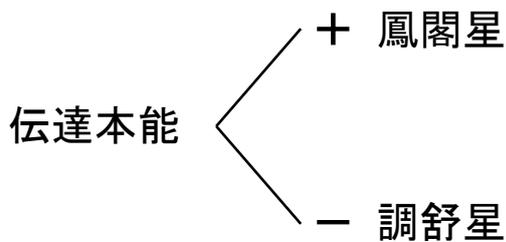
なるようになるさ……それは子供っぽい性質とも考えられ  
ます。

自分の気持ちに正直で直接的な伝達をしますから、生意気  
に見えるとか、凶々しく見える、ということもあります。

**生意気 ⇒ 凶々しい**

そのように思われたりすることは、多々あるでしょうが、  
子供っぽい内面をもっています。飾り気なくありのまま  
の質をだします。その姿はあたかも子供が素直になったと  
きのように見えます。

☞ 鳳閣星と調舒星は（陽）と（陰）の違いはありますが、ともに伝達本能の星です。



陽と陰の違いはあっても、どちらも伝達を主とするような職業に向いています。

伝達を主とする仕事に向いている。

もう少し具体的にいえば……。

### 話す仕事

アナウンサーでも、ナレーターでも、ウグイス嬢でも、とにかく話す仕事、しゃべる仕事などに向いています。

ほかにどのような仕事があるのかといえは、鳳閣星の五行は火性で五徳は〔寿〕です。健康の分野もよいです。

表情・身振り・動作などを客観化して、外面的な姿として表現する質を内在していますから、それを描き出す分野に向きます。

芸術家 ⇒ 芸術的才能を必要とする仕事

〔たとえば〕画家は絵を描くのが仕事です。

絵を描くというのは伝達です。

自分の気持ちとか、人生の喜びとか、人生の悲しみとか、それをキャンバスに描いて、外部から見えるように表現するのが画家ですよね。

✽ アリータ・アンドレ (Aelata Andre) 2007-1-9

大運は2歳運の逆まわり

	癸	辛	丙		司禄星	天堂星	2 庚子
辰	卯	丑	戌	鳳閣星	貫索星	龍高星	12 己亥
巳		癸	辛	天貴星	龍高星	天南星	22 戊戌
		辛	丁				32 丁酉
	乙	己	戊				42 丙申

☞ ぜひ、ネットで検索して、少女の絵を観ていただきたいです。

✽ 芥川 龍之介 1892(M25)-3-1 1927(昭2)-7-24 [35歳没]

大運は2歳運の順まわり

	壬	壬	壬		貫索星	天庫星	2 癸卯
午	辰	寅	辰	車騎星	鳳閣星	車騎星	12 甲辰
未	乙	戊	乙	天庫星	石門星	天胡星	22 乙巳
	癸	丙	癸				32 丙午
	戊	甲	戊				42 丁未

✽ 志村 けん 1850(S25)-3-1 2020(令2)-3-29 [70歳没]

大運は5歳運の順まわり

	丙	戊	庚		禄存星	天庫星	5 己卯
午	戌	寅	寅	鳳閣星	龍高星	龍高星	15 庚辰
未	辛	戊	戊	天庫星	鳳閣星	天胡星	25 辛巳
	丁	丙	丙				35 壬午
	戊	甲	甲				45 癸未
							55 甲申
							65 乙酉



✽ 石原 裕次郎 1934(S9)-12-26 [1987-7-17] 52歳没

大運は3歳運の順まわり

	癸	丙	甲		調舒星	天堂星	3 己卯
戌	酉	子	戌	龍高星	貫索星	牽牛星	13 庚辰
亥			辛	天胡星	司祿星	天祿星	23 辛巳
			丁				33 壬午
	辛	癸	戊				43 癸未
							53 甲申

✽ 渡 哲也 1941(S16)-12-28 [2020-8-10] 78歳没

大運は8歳運の逆まわり

	庚	庚	辛		石門星	天貴星	8 己亥
寅	戌	子	巳	龍高星	調舒星	車騎星	18 戊戌
卯	辛		戊	天堂星	貫索星	天極星	28 丁酉
	丁		庚				38 丙申
	戊	癸	丙				48 乙未
							58 甲午
							68 癸巳
							78 壬辰

絵で表現してもよいし、<sup>かしよう</sup>歌唱で表現してもよいし、音楽で表現してもよいし、表現の方法はなんでもよいのです。

歌手といっても、ただ歌がうまいから歌手に向くとは限らないわけです。

ただ、うまいだけでなく、その歌唱のなかに人生の悲しみとか、<sup>よろこ</sup>悦びとか、そのような感情の起伏まで、伝えられる歌手のほうが優れた歌い手といえるでしょうし、多くの人に認められるはずです。

楽しい詞を<sup>し</sup>歌ったときに、楽しい雰囲気<sup>し</sup>が伝わって、聴く人まで楽しくさせる才能は聴衆からの支持をうけます

話す仕事は伝達ですけど、ものを書くということでもよいのです。

〔鳳閣星〕あるいは〔調舒星〕をもつ人たちが、必ずしもいい声をしているとは決まっていませんよね。

なかには、声が悪い人もいるはずですよ。

そうしますと、話す仕事に就きたいと思っても、声がよくないとすれば、そういう人は試験を受けても落ちてしまうでしょう。書く仕事を選択するのも方法です。

ものを書いて伝えるのも伝達です。

### 書く仕事（作家・マスコミ関係など）

作家とか、編集者、脚本家とか、マスコミの世界で記事を書いて伝えるということに携<sup>たずさ</sup>わる仕事、コピーライターでもいいです。それらは伝達の範疇です。

伝達を主とする仕事で、もう一つ代表的なのがあります。

### 先生 ⇒ 教えること

学校の先生は、生徒に勉強を教えるのが仕事です。

先生が培<sup>つちか</sup>ってきた知識とか、技術とか、経験とかをいかに上手に生徒に伝えられるのか、それは先生の素質です。

昨今・学校の先生がノイローゼになるとか、教える教育者が登校拒否になっているという報道されたことがあります。つまり、一流大学を出て、すごく頭がよい人であっても、先生という職業に〔向いている〕〔向いていない〕そのことは別なのです。鳳閣星・調舒星のどちらかを必要としますし、人体図にある星の流れも影響します。

話す仕事・芸術の仕事・書く仕事、あるいは、教える仕事、それらの仕事に就くのなら、まず少なくとも、鳳閣星・調舒星のどちらか1つは必要と考えています。

すべてとは言い切れませんが、基本的にそのように考えて頂いて結構です。

「鳳閣星か調舒星が1つもないと、これらの仕事を継続するのは難しいですよ」あるいは「向きませんよ」と占うことは多いです。

その人は優秀で学校の成績がよかった。それは別です。

学校で毎日毎日教えるわけですから“教える”そのことが好きでなければ、つまり無理せずに教えられるような宿命の人でなければ、続かないと考えているのです。

⇒ 鳳閣星を人物におきかえることができます。

**鳳閣星の人物 ⇒ 子ども・目下**

鳳閣星は子どもの星、目下の星という意味があります。

〔鳳閣星は陽の星だから男の子〕というふうに、占う場合もありますけど、男の子・女の子とかの性別に関係なく、「子供の星」という意味があります。

鳳閣星は子供の星だと、まずはそう考えておいてください。  
調舒星（陰）もおなじように考えます。

子供運を占うとか、親が子供と縁が〔ある〕〔ない〕という  
占いをするようになってゆきますが、そのときは鳳閣星・  
調舒星をつかって、観てゆくようにもなります。

さきほどから、鳳閣星はあるがまま自然に生きようとする  
星だといいましたように、自然思考といわれます。

### 思考法 ⇒ 自然思考

そんざい  
存在するとおり生きる、のんびり成行きにまかせて生きて  
いく、そのような考え方をする星なわけです。

鳳閣星の人が、実際にそのような心境でいられるときは、  
その人物本来のほんらいよさが出ます。

参考：本来〔性質・能力・役割などとして、もともと備わっていること〕

☞ 「宿命道理 しゅくめいどおり」「宿命通り しゅくめいどおり」

その言い方がたびたび出てきました。

宿命道理に宿命に沿って生きることは、その人にとってのよい在り方なって行きます。

しゅくめい とお  
宿命の通りに生きないと、宿命が苦しむし、本人も苦しむのです。

参考：道理〔物事のそうあるべきすじみち〕

参考：通り〔道などに沿ってとおること〕

参考：在り方〔あるべきすがた〕

本来の宿命の『分<sup>ぶん</sup>』を超えるほど、出世するとか、偉くなるとか、財産が増えとか、そうなると却<sup>かえ</sup>って、その事象がその人自身の人生を苦しめるようにもなります。

「個々の宿命には『分<sup>ぶん</sup>』があり、その分を超えると、宿命から外<sup>はず</sup>れたことになる」このような考え方が、算命学にあるわけです。

いずれ「五徳」を勉強するようになります。そこで学びます。

参考：分〔その領域・範囲・分け与えられた性質〕

<sup>しゅくめいどうり</sup>  
“宿命道理”ということでは…… 鳳閣星の人なら、ここに紹介した意味合いを有していますので、それを活かした生き方をすると、<sup>しゅくめい</sup> <sup>とお</sup>宿命の通りになるわけです。

あるがまま自然に生きようとする。  
のんびり成行きにまかせて生きてゆく。  
→ こういう心境で生きて行くことが宿命の通りといえます。

鳳閣星をもつ人は、このような心境になる場合が多いのですが、実際にこの心境で生きていくと、大変にこの人らしい良さをだせます。

のんびりしていて、落ち着きがあって、温厚で、おだやかで、いい人だなと、周囲からも見えるでしょうし、また、そのほうが本人も自分の実力を発揮できます。

逆に、応用して考えるときは、つぎのように考えます。

この人をやっつけようと思ったら、あるいはこの人を、苦しめようと思ったら、どうしたらよいのでしょうか？

つまり、のんびり成行きにまかせて生きていけないようにすればいいわけです。鳳閣星の人は、まわりから<sup>あせ</sup>焦るよう

にされるとか、急<sup>せ</sup>かされたりすると、イライラしてきて、  
鳳閣星本来の心境になれなくなります。

そうなってしまうと、実力を出せなくなります。

⇒ 鳳閣星が主星のお子さんが生まれたとします。

3歳頃になると物心がついてきます。

その頃は、子供本来の質が出てくる時期でもあります。

また小学校に行きますと、宿題も出てくるでしょう。

そこで……そのお子さんがのんびりしていると、親御さんが「なにのんびりしてるの、早く宿題やりなさい」とか、「勉強しなさい」とか言って、子供の気持ちを急<sup>せ</sup>かせると、子供は親に怒られたので、宿題をやらなければという焦<sup>あせ</sup>りに追い込まれてしまうわけです。

このような状況になると、鳳閣星の子供は、却<sup>かえ</sup>ってやる気がなくなります。

精神的にやる気を失います。

鳳閣星の子供はのんびりでマイペースですけど、やる気になったら一所懸命やろうとする。

そういうタイプです。

それなのに「のんびりしている」という一面を見ただけで、親がこの子に、「宿題どうしたの、やったの」とか、いって焦らせるとか、<sup>せ</sup>急き立てるとかすると、実力を出せなくなります。

<sup>せいらい</sup>生来の素質をうちこわしてしまうことにもなります。

生まれつき持っていて、性格や能力などのもとになっている心的な質を破壊してしまうと、本来のチカラを発揮できなくなります。

口うるさいお母さんのところに生まれたりすると、鳳閣星のお子さんは可哀相な<sup>きょうぐう</sup>境遇を背負ってしまうことになります。

親が子供の芽を摘んでしまう恐れがあるのです。

鳳閣星の子どもが生まれたら、特に気をつけて育てないといけません。

参考：境遇〔生活していく上での、その人の環境や立場〕

つぎは調舒星です ➡

## ☆ 調舒星

ちょうじょせい  
調舒星 ⇒ 伝達（陰）

調舒星は伝達の陰です。

“あるがままでない伝達” そのようにおもってください。



無形の伝達

というような言い方をします。

調舒星はすこし理解しにくい面がある星なのです。

“あるがままでない伝達” をします。

言い換えれば（ありのままの伝達をしません）

鳳閣星とはタイプが異なる質をもっています。

調舒星は「十大主星」のなかで難しいです。

特に主星にもつ人の考え方を理解するのは難しいです。

☞ そこで——つぎのように考えるとよいでしょう。

鳳閣はあるがままに伝達します ⇒ わかりやすいです。

調舒はあるがまま伝達をしません ⇒ わかりにくいです。

「ありのままの伝達をしない」それは自分が思い描いているものを、あるがままに外へ出さないだけなのです。

調舒星を主星にもつ人の心の奥底には、複雑な感情とか、ものごとを感じる気持ちが錯綜さくそうしています。

心奥にさまざまな思いが存在しています。

直接的にありのままの姿を言わないので、心の内面で葛藤かつとうが起こりやすいのです。

胸の内を全部さらけ出してしまえば、あとはスッキリしますよね。いかがでしょう。参考：錯綜〔物事が複雑に入りくむこと〕

ところが、思い・思いおも おもをさらけ出しませんから、却かえって、心中しんちゆうにいろいろな感情、想像、ドラマが拡散します。

それゆえ心奥に種々の葛藤しんおう しゅじゅ かつとう こうさくが交錯するということになり、「空想くうそうの星」です。空想・想像たくえつに卓越している星です。

参考：錯綜（物事が複雑に入り混じること）

参考：葛藤（心のなかにそれぞれ違った方向、あるいは相反する方向の欲求や考えがあって、その選択に迷う状態）

参考：空想〔現実からかけ離れて、頭のなかであれこれ想像すること〕

参考：卓越〔ほかのものよりも、はるかにすぐれている〕

調舒星が2つあると、「哲学者の星」ともいわれます。

1つだけでも、その要素を内在するのに、2つもあると、哲学者に向くといわれている星です。

参考：哲学〔宇宙や人生の究極の根本を客観的・理性的に追求する〕

参考：哲学者〔哲学の思索や研究にたずさわる者〕

この人が哲学者になるのか、どのような仕事に就くのか、わかりませんが、この星をもつ人の内面は複雑です。

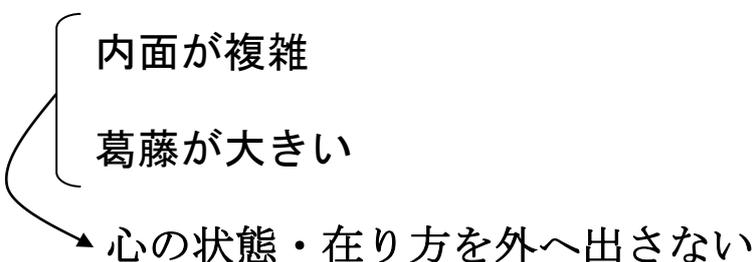
**内面が複雑 ⇒ 葛藤が大きい**

あるがまま伝達しませんから、どうしてもいろいろな感情が自分の心のなかに交錯します。

参考：交錯〔いくつものものが入り交じった状態になること〕

しんちゆう おも おも かつとう うず ま  
心中に複雑な思い・思いの葛藤が渦を巻いていても……

あ まま  
在るが儘に伝達しません。それを外へ出しません。



特に人体図の主星が調舒星とか、調舒星が2つ以上あると  
かになると、空想・想像はとても豊かですけど、心の内奥ないおうは  
複雑で葛藤が大きい人です。

ところが——奥深くひそに潜む葛藤をなかなか表にだしません。  
人前に見せません。

一見いっけんすると楽しそうでも、実はさまざまなことで悩んでい  
る。そういうこともよくあるわけです。

外面がいめんは穏やかそうに見えても“怒っている”そういうこと  
もあります。

心の内面が複雑で、空想・想像するチカラがあるというこ  
とは感性が鋭いのです。

十大主星のなかで、感性（心に深く感じる質）は、1番鋭い星  
です。感性が鈍感どんかんなら葛藤も起こらないし、内面が複雑に  
もならないでしょう。

調舒星の人は感性が鋭敏えいびんなので、普段の生活のなかでも、  
いろいろなことに気づきます。しかし、口に出しません。

唇くちにださないけど、相手の欠点に気がついてしまったとか、  
自分に嘘をついたら、相手の嘘に気がつくとか、いろいろ  
なことについてです。

ほかの星よりも深く感じるために、葛藤が大きく膨らんでしまったり、心のなかに存在するさまざまなかごきぎが葛藤に結びついてしまう。ということも起こります。

しんてい  
心底に存在する本当のころのうちを外へ出しませんから、孤独の星ともいわれます。

### 孤独（ひとりぼっち）

このような特性をもっているということは、よくいえば、  
ひと  
独りでいろいろなことを考えて、限度を超えた空想を心のうちに思い浮かべます。

神経質な人ともいえます。

### 神経質（こまごまと気にかける）

「空想・想像にすぐれていて神経質な星」

それが調舒星の特徴だとおもってよろしいのです。

参考：空想〔現実からかけ離れて、頭のなかであれこれ想像すること〕

参考：想像〔実際には経験のない事物、現象などをおもい描くこと〕

てづかおさむ  
✳ 手塚治虫

1928(S3)-11-3

[1989-2-9] 60歳没

大運は2歳運の順まわり

	丁	壬	戊		調舒星	天堂星	2 癸亥
寅	未	戌	辰	鳳閣星	調舒星	調舒星	12 甲子
卯	丁	辛	乙	天南星	牽牛星	天印星	22 乙丑
	乙	丁	癸	右手		左手	32 丙寅
	己	戊	戊	陽占 (人体図)			42 丁卯
							52 戊辰
							62 己巳

陽占 第四命星〔調舒星〕、主星〔調舒星〕、第二命星〔牽牛星〕

第一命星・右手〔鳳閣星〕、第三命星・左手〔調舒星〕

陽占には、伝達の星〔鳳閣星 1つ〕〔調舒星 3つ〕あります。

空想がぬきんでて感性が鋭い—— おわかりになりますでしょうか。

☞ おなじ生年月日の人はいくらもいますが両親は違います。

両親がいつ結婚したかでも違ってきます。育った環境も違います。

ゆえに、おなじ生年月日に生まれても生き方・運勢は異なります。

調舒星が主星の人、調舒星が多数ある人、あるいは人体図に1個

でもあれば、調舒星の質はどうぜんあります。

調舒星をもつ人は、毎日の生活のなかで、1人でゆっくりとものを考えたり、ときには空想したり、そういう独りの時間が必要だと考えています。

毎日の生活のなかで、1人になれる時間が全くない、という環境に置かれたら、ノイローゼになっていきます。

<sup>ひと</sup>独りでゆっくりといろいろなことを考えたり、空想・想像したりするのが好きですし、それが得意な星です。

ゆっくり好きな本を読むとか、ゆっくり好きな音楽を聴くとか、1日のなかにそういう時間が15分でも、30分でもよいですから、調舒星には必要と考えています。

独りの時間をまったく取れないと、精神的な逃げ道がなくなって追いつめられてゆきます。

もし、調舒星の人をやっつけようと思ったら、独りにさせなければいいわけです。

いつも誰かそばにいて話しかけるとか、いつもまわりに気をつかわなくてはいけないとか、そういう状況・状態に置かれてしまうとノイローゼになってゆきます。やっつけないでください。

内面に潜む葛藤は複雑で、本心をなかなか出そうとしないので、なにを考えているのか、よくわからない人です。

こころのうちでなにを考えているのか、よくわからない星の代表は調舒星です。

この人なにを考えているのかわからない。まわりから見て判断したとき「この人の考えていることは、これだ……」とおもっても、そうではない場合が多いのです。

⇒ 調舒星は誤解を招きやすい星でもあるのです。

調舒星が怒ったときの例えを挙げましたが、調舒星の人が怒りっぽいという意味ではありませんよ

鳳閣星は怒ったとき……あるがままに伝えようとしますが、調舒星はあるがまま伝えようとしません。

鳳閣星の人が怒った場合と、調舒星の人が怒った場合とはどちらが怖いでしょう。怒ったとき怒らせたときです。

怒ったときは、直接的に怒っているほうが怖いですよ。

つまり、鳳閣のほうが怖いのです。

調舒星は怒っても、表面的には怖くないです。それはあるがままの伝達をしないからです。

⇒ 鳳閣星と調舒星の怒ったときを比較します。

**鳳閣星 ⇒ 怖い**（表面的には）参考：表面的〔物事の見かけだけに関するさま〕

表面的には、怒ったら鳳閣星の人のほう怖いというのは、あるがままの伝達だからです。

鳳閣星は“のんびり”といいましたが、いったん怒らせると直線的に怒ります。

鳳閣星は相手に一直線で文句をぶつけますが、鳳閣星自身は怒ることで（怒りをぶつけることで）スッキリします。

**調舒星 ⇒ 恐くない**（表面的には）

調舒星はあるがままに怒りません。表面的ではないです。こういう違いがあります。

**鳳閣星 ⇒ 直接怒りをぶつける** → <sup>あと</sup>後まで尾を引かない。

〔たとえば〕もし何かのことで、鳳閣星の人を怒らせてしまったとします。あのときすごく怒っていたから「会うとなにかいわれそうだな」と思いつつ会ったら、気にしている様子もなくニコニコしている。それが鳳閣星の人です。さんざん怒ったから、スッキリしちゃったわけです。

☞ 調舒星が怒ったとき、表面的には恐くないといえます。

本当は身体が震えるほどに、「いかり心頭しんとう（激しくいきどおる）」  
なのに、怒っていないように見せたりします。

相手が「あなた怒ってるの？」と訊くと、「怒ってない」と  
こたえたりします。

怒っているときに、感情を相手にぶつければ、スッキリし  
ますが、調舒星は隠して出しません。

それが胸の内にたまっていきます。

調舒星は思い切って、自分の気持ちを吐き出さないで、  
怒ったときは恐くないのですが、後々まで自分のなかに  
保ち続けます。

調舒星 ⇒ 怒りをぶつけない → 後々まで執念深いあとあと

鳳閣星の人が怒り始めたら、怒らせたほうがよいです。

言いたいことがあれば——言わせてしまう。

そのほうが鳳閣星の怒りが解けて和らぎます。

おなじ伝達の星ですが、鳳閣星と調舒星はこのような違い  
があります。

さて、どっちのほうが恐ろしいのでしょうか？

☞ 調舒星は難しい星です。

調舒星が本当に怒っているときでも、相手の人から見ると

「この人……あまり怒ってない」と思いやすいです。

ところが、「怒ってないの」と相手の人が思ってしまうと、

調舒星の怒りは胸内でエスカレートします。

ここが難しいところです。

参考：エスカレート〔段階的に拡大・増大するさま〕

怒ったときに口を利かない。話しかけられても無視する。

そのような怒り方は、どなたも自ら経験・体験したことがあるとおもいます。

調舒星は相手から話しかけられても、口を利かない。

「怒ってんの！」と相手が訊いて来て、「怒ってない」とこたえるのは何故でしょう。

調舒星は怒ったとき、どうして“あるがまま”に怒らないのでしょうか。

何故そういう怒り方を選ぶのでしょうか。

言いたいいことがあれば、それを吐き出してしまおうほうが、スッキリするはずです。それをしないのは調舒星の特質で

す。何故——そういう怒り方を選ぶのでしょうか。

調舒星の感性は鋭く神経が繊細<sup>せんさい</sup>で、胸内<sup>むねうち</sup>には複雑<sup>おも</sup>な想いがあります。

それは葛藤であり、ドラマですから「私は怒っているのよ」そんな単純な言葉で、心の思い・心の想い・自分の気持ちを、とても表現しきれないのです。

空想・想像の感性を膨張させるほどに備えていますから、“怒り”の本質そのものが大きく膨らんでいきます。

「わたし怒ってんの」そんな単純な心持ちではないのです。怒り<sup>うち</sup>の内には、不快・悦<sup>よろこ</sup>び・悲しみ、それらの感情の想いが錯綜しているのです。

どうして怒っているのか——〔これについては怒ってない〕  
〔これについては怒っている〕と、感情が錯綜するために、本心がどこにあるのか……自分でもよくわからないのです。それゆえ、そのような怒りの趣<sup>おもむき</sup>になると考えています。

参考：思い〔頭で考えて、心で感じる〕

参考：想い〔繊細な姿・形を心に浮かべ描く〕

参考：趣〔心がある方向に動いてゆくこと〕

☞ 調舒星は伝達の星です。

主体性がない伝達といっても、伝達の星ですから、本当は相手にわかってもらいたいのです。

〔本心を相手に知られたくない〕だから黙っているのではないのです。

〔本心を相手に知って欲しい〕だから黙っているのです。

自分が怒ったときに、相手が話しかけてきても<sup>おう</sup>応じない。口を利かないという姿は〔自分がどれほどに怒っているのか〕ということ、伝えようとしているのです。

「わたし怒ってんのよ」と言葉でいっても、自分のなかの複雑な気持ちが相手に伝わらないので、あえて口を利かない・応じない・無視するという姿で、怒りの伝達をするわけです。

参考・気持ち〔物事に接して、それに対して感じた心の<sup>あ</sup>在り方（心の状態）〕

このような感情の流動——おわかりになりますでしょうか。本当は相手に知って欲しいわけです。

自分の心の姿をわかってもらいたいのです。

自分が言葉に出して言おうとしている胸のうちを、相手がわかってくれないと承知できない・許せないのです。

調舒星 ⇒ 怖くないけど → <sup>あとあと</sup>後々まで執念深い



相手に自分の気持ちをわかって欲しい。

これって、怖いことですよね。

調舒星はふつうの人よりもかなり繊細で複雑なので、単純に「わかったわ」という。相手のわかり方では自分の気持ちを伝えたことにはならないのです。

伝達をして相手に理解してもらいたのですが「怒ってんのよ」といって、「ああ、あなた怒ってんのね、あっそうゴメンナサイね」そんな表面的な謝罪の気持ちでは、自分の内面で噴き出している葛藤の気持ちをわかってもらったことにはならないのです。

自分が怒っていることを、ちゃんと相手にわかってもらうためには、どうしても曲線を描く伝達になってしまうわけです。

「もっと深く考えてよ、反省してよ」となるわけです。

このときに ⇒ 相手がわかろうとしないと倍加して怒る。

具体的にはつぎのような意味です。

調舒星をもつ人が怒ったときに、[たとえば] 口を利かない

い怒り方しているとします。

それを感じた相手が「あなた怒ってんの？」と訊<sup>き</sup>いてきて  
「怒ってなんかいないわよ」と調舒星の人が言ったとしま  
す。相手は「怒ってないのよかったわ」それで済ましたら、  
輪<sup>わ</sup>を掛<sup>か</sup>けて怒ります。 さきほどと重複していますけど。

⇒ 実際は口を利きたくないほど怒っている調舒星の人に、  
「怒ってる？」って訊<sup>き</sup>いたら、「怒ってない」ってこたえた  
ので、「あら、怒ってないのねよかったわ」じゃあまたね。  
そのように単純に済まされてしまうようなことになれば、  
後々<sup>あとあと</sup>まで恨<sup>うら</sup>みを抱<sup>いだ</sup>きます。

⇒ 2004 (H16) 年6月1日——同級生の首をカッターナイフで殺害した加害者 **辻** の主星は調舒星で、第四命星にも調舒星があります。人体図に調舒星が2つあります。

被害者 **御手洗** の主星は鳳閣星です。

**辻 菜摘**

	調舒星	天将星
龍高星	調舒星	石門星
天印星	貫索星	天恍星

**御手洗 怜美**

	車騎星	天胡星
龍高星	鳳閣星	禄存星
天貴星	龍高星	天南星

⇒ 干支暦をつかって宿命をだすと下記のようにになります。

✽ <sup>つじ なつみ</sup> **辻 菜摘**

1992 (h4) 加害者〔当時 11 歳〕

大運は5歳運の逆まわり

辛	辛	壬	調舒星	天将星	5 庚戌
辰	丑	亥	龍高星	調舒星	15 己酉
巳	癸	乙	天印星	貫索星	25 戊申
	辛	甲			35 丁未
	己	壬			45 丙午
		戊			55 乙巳

✿ みたらい さとみ  
御手洗 怜美

1992(h4) 被害者〔当時12歳〕

大運は6歳運の逆まわり

丙	甲	壬		車騎星	天胡星	6 癸卯
戌	寅	辰	申	龍高星	鳳閣星	16 壬寅
亥	戊	乙	戊	天貴星	龍高星	天南星
丙	癸	壬				
甲	戊	庚				

⇒ 2004年6月1日の事件に話をもどします。

お断りしておきますけど、算命学の勉強としての話です。

御手洗怜美さんを殺害した加害者の辻菜摘さんが悪いわけですが、辻さんの主星は調舒星で人体凶には2つあります。このような人体凶をもつ人が殺人という犯行、あるいは、相手を傷つけたりするようなことになるとすれば、それは交友関係の過程のなかで、相当に溜まったものがあつたと考えられます。

加害者の辻さんの肩を持つわけではないのですが、御手洗さんが、〔たとえば〕辻さんの心を傷つけたり、辻さんをバカにしたりというようなことが、度々あつたものと考えられます。

そのたびに〔辻さんは怒っていないような振りをした〕〔怒っていても、怒りの気持ちを相手にぶつけなかった〕それゆえ、相手は

辻さんの<sup>むねうち</sup>胸内を理解できなかったと考えられます。

御手洗さんの人体図を算出してみますと、主星が鳳閣星です。

鳳閣星はストレートな伝達の星です。おもっていることを直接的に表現します。つまり。相手に対して「いいたいことを言っていた」と考えられます。

加害者の辻さんのほうは、いまの自分の気持ちを汲み取ってもらいたい、わかってもらいたいと願う。それが調舒星です。

御手洗さんは「辻さんが怒っている」と、おもっていなかったはずです。怒っていると感じない・おもわないから、エスカレートして相手が傷つくようなことを言ってしまう。辻さんの心が相当に傷ついていることを考えてもいませんから、輪を掛けて言ってしまうわけです。

そうすると、加害者の女子の心奥<sup>しんおう</sup>には、どんどん恨み<sup>うら</sup>が溜ま<sup>た</sup>っていきます。このような図式だと考えられます。

☞ これは誤解のないように申し上げておきます。

調舒星をもつ人は犯罪をおかす。ということではないですよ。

むしろ調舒星を活かして、手塚治虫氏のように見事な世界



岩崎弥太郎の孫娘、三菱財閥三代目総帥・岩崎久弥男爵の長女として生まれる。戦後、戦災孤児の養育に一生を捧げています。調舒星は神とおぼしき愛をもっています。彼女はネットで検索できます。

⇒ 話をもどします。

〔たとえば〕子どもが死ぬとか、子どもが犯罪をおかすとか、それは子供よりも、むしろ親の宿命に原因があることが多いと、算命学は考えています。

親のほうにそうさせるような原因があるわけです。

この加害者は、主星が調舒星で人体図に2つある子だったので、調舒星の特質として、葛藤と苦悩が内面に溜<sup>た</sup>まっていく、そういうところだけはわかるわけです。

それが殺害までとなると、本人よりも、親のほうの運勢に問題があると考えます。

先ほど、鳳閣星と調舒星が怒ったときの部分だけを取り出して説明しましたが、誤解しないで頂きたいのは調舒星は怒りやすい星という意味はないのです。

当然ですが、怒るような事象がなければ怒りません。

調舒星は（陰）の伝達の星です。その質は廻り道なのです

けど、相手にわかって欲しいのです。

調舒星の人の気持ちをわかってあげると、心を開いてくれます。



非常にやさしい人になる

調舒星の人は、ほかの人よりも奥深いところが複雑です。

その部分をおしはかると、すごくやさしい人になります。

澤田美喜氏は人種の差別なく、戦争孤児に平等に接したのです。

参考：おしはかる〔ある事柄を基準として、想像で事柄を判断する〕

鳳閣星のところで、仕事について共通の意味をご説明しましたが、さらに調舒星をつぎのようにも考えます。

調舒星が主星の人、調舒星が人体図にいくつもある人は、  
空想・想像を<sup>い</sup>生かしたような仕事には、とても向いています。

その分野に才能を発揮します。

✳️ <sup>ふじこ</sup>藤子 <sup>ふじお</sup>不二雄 1933(S8) 12-1 [1996-9-23 没] 62歳

大運は8歳運の逆まわり

	辛	癸	癸		鳳閣星	天禄星	8 壬戌
辰	丑	亥	酉	調舒星	調舒星	石門星	18 辛酉
巳	癸			天印星	鳳閣星	天恍星	28 庚申
	辛	甲					38 己未
	己	壬	辛				48 戊午
							58 丁巳
							68 丙辰

「ドラえもん」の藤子不二雄さんは亡くなりましたけど、  
鳳閣星・調舒星が全部で3つあります。

その星に向く仕事はいくつもありますが、「哲学者の星」ともいわれる星です。

調舒星をもつすべての人が、哲学者になるということではもちろんありませんが、実際に哲学者には調舒星をもっている人が多いです。

＊ パスカル 1623-6-19

	辛	戌	癸		鳳閣星	天恍星
寅	亥	午	亥	調舒星	龍高星	調舒星
卯			癸	天恍星	玉堂星	天胡星
	甲	己	甲			
	壬	丁	壬			

＊ カント 1724-4-22

	癸	戌	甲		調舒星	天印星
辰	卯	辰	辰	鳳閣星	牽牛星	牽牛星
巳		乙	乙	天貴星	牽牛星	天印星
		癸	癸			
	乙	戌	戌			

＊ ニーチェ 1844-10-15

	戊	甲	甲		車騎星	天南星
戌	辰	戌	辰	牽牛星	調舒星	牽牛星
亥	乙	辛	乙	天南星	車騎星	天庫星
	癸	丁	癸			
	戊	戌	戌			

## \* サルトル 1905-6-21

辛	壬	乙		禄存星	天極星
午	卯	午	巳	禄存星	龍高星
未			戊	天馳星	調舒星
			己		庚
			乙		丁
					丙

「人間は考える<sup>あし</sup>葦である」といったパスカル。

ドイツの哲学者・カントも調舒星をもっています。

ニーチェも調舒星が主星です。(ドイツ、超人主義・キリスト教的道徳を排し、権力意志を強調、強者の道徳によってのみ人は超人の域に達しうる)

サルトルも調舒星があります。

空想・想像して——心のなかに思い浮かぶ印象によって、何かを描くとか、何かを彫るとか、いろいろあるでしょうが、心に深く感じる——なにかを表現する分野では、特出した才能を発揮できる星です。

空想・想像のチカラがあって、感性が鋭いわけですから、それを表現する能力を求められる仕事にはとても向いています。

算命学でいう「精神的な分野」というのは、感性をつかう分野と解釈するとよいでしょう。参考：感性〔心に深く感じること〕

⇒ 調舒星を人物でいいますと ——〔鳳閣星とおなじです〕

調舒星の人物 ⇒ 子ども・目下

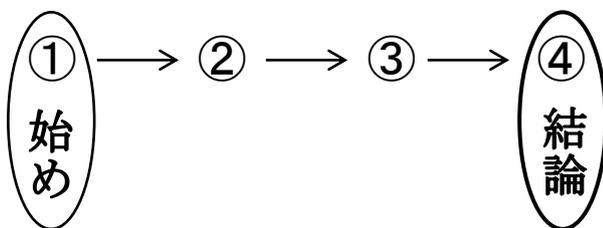
(子どもの星) (目下の星) と考えます。

調舒星の<sup>しこう</sup>思考 ⇒ 点から点へと深く考える。

ものの考え方は……点から…点へ…<sup>おも</sup>思いめぐらす。

参考：思考 (あれこれと考えを働かせる)

調舒星・思考 (1)

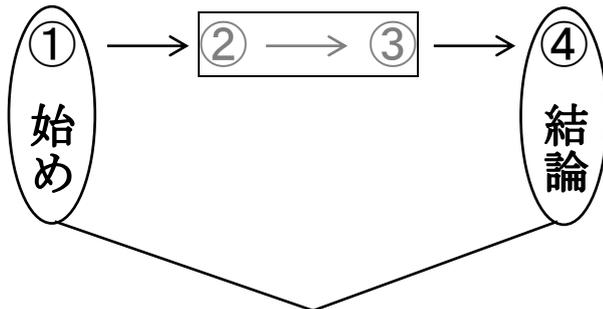


①を考えの出発とすれば —— つぎは②だと考えるようになって、つぎは③だと、結局は④だ。

というふうに考えていくのでは……とおもえます。

調舒星の思考は——点から…点へ…ということですから、  
 このとき——まわりの人たちに中間ちゅうかんが見えません。

調舒星・思考(2)



まわりの人にはここしかわからない

①の部分と④の部分しか見えないのです。

「風が吹けば桶屋おけやが儲かる」という『ことわざ』にたとえますと、  
 風が吹くと砂埃すなぼこりが舞って目に入るので、眼病を患って盲人がふえる。  
 盲人は三味線もうじんを弾くので、三味線に張る猫の皮が必要になり、  
 猫が捕獲されて猫が減ると、ネズミが増えてきて桶おけを齧かじるので、  
 桶を買う人が増えて桶屋おけやが儲かる。という話があります。

② → ③ を飛び抜けて——なんで桶屋が儲かるのか  
 という——その理由がスッポリないのです。

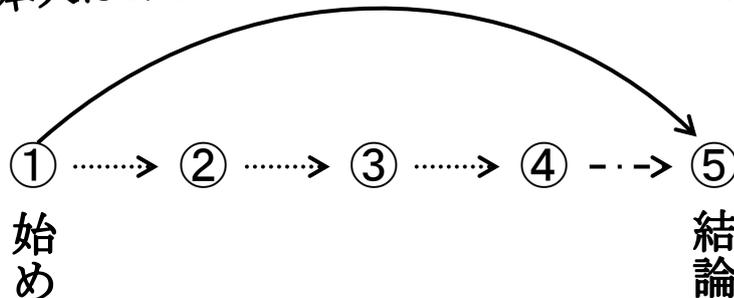
点から…点へ…話しが飛んでしまっちゅうかんて中間がないのです。  
 まわりの人に、調舒星の人の思考の道筋が見えませんかから

どうしてこんなふうに考えるのかがわからないのです。

まわりの人に見えなくても、思考の回路かいろは全部つながっていて、本人の考えはどんどん発展していきます。

調舒星・思考（3）

本人はあれこれ考えた想いをどんどん発展させます



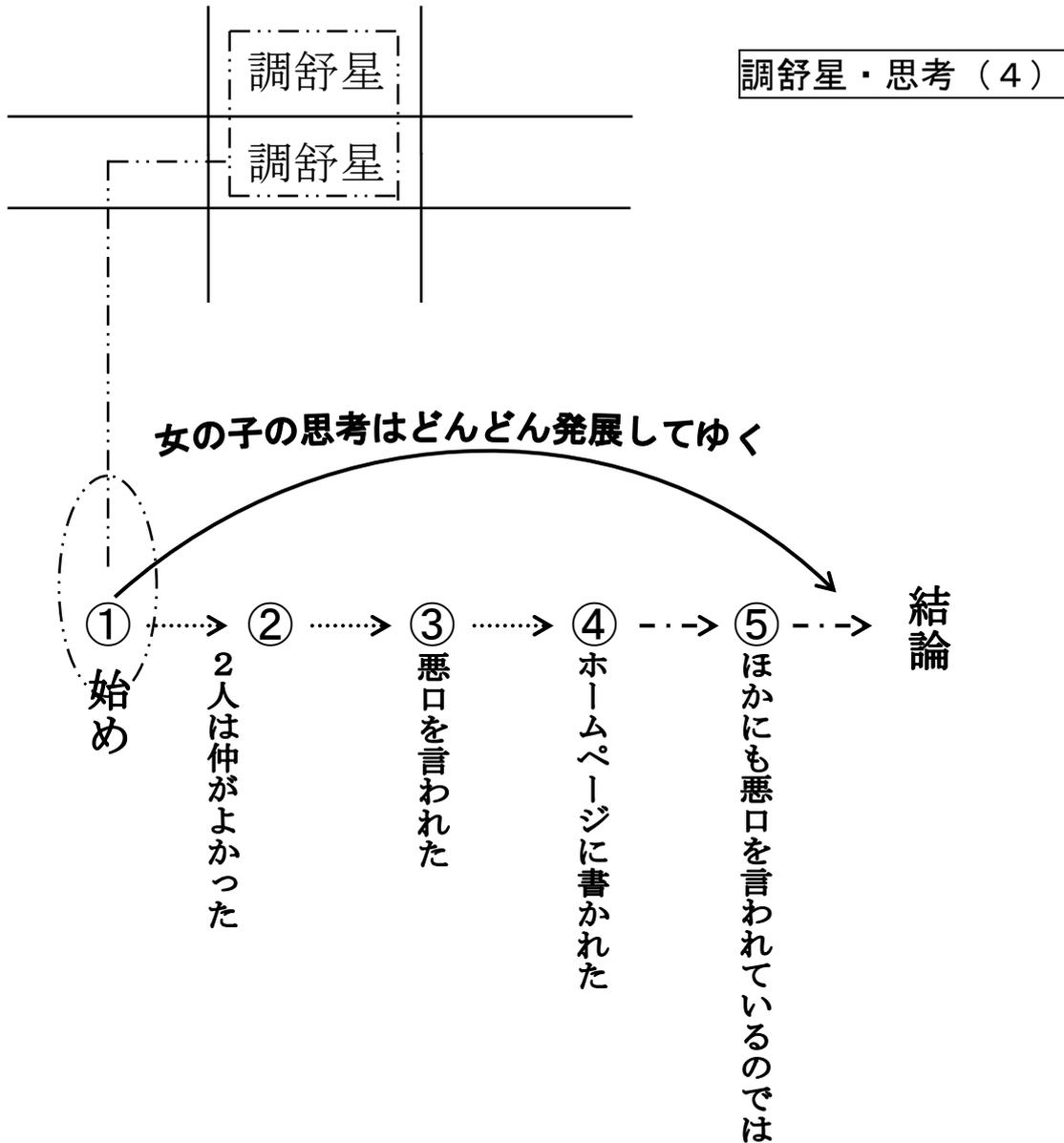
①の考え方をして、つぎに②の考え方、そして③の考え方になって、そして④かな……結局⑤の考え方になって行くというように、どんどん思考が発展してゆくわけです。

その帰結は——調舒星の特質が見事に大輪の花を咲かせることもあれば……せいき うしな しお生氣を失って萎れてしまうこともあります。

参考：生氣 [いきいきした勢い]

[たとえば] Aさんは人体図に **調舒星が2つ** あります。

Aさんは女の子



③のところで、A子さんがD子さんから悪口をいわれた。

④悪口をホームページに書き込まれたAさんの心<sup>うち</sup>の内では  
どんどん思考が発展して、⑤苦しみとともに怒りが湧き出  
てきて結論へ向かって行く。

「D子が自分を学校に来させないようにしているんじゃないか……」A子の内奥ないおうの葛藤が激しく錯綜さくそうして、どんどん考えが膨らんで発展するわけです。

あ悪しきほうへ膨らみが発展してしまうと、被害妄想になるとか、それが原因でノイローゼになるとか、その可能性も否定できないのが調舒星です。

あたまのよい星で、思考力がある星です。

その思考がよいほうに発展してゆけば、それは見事な作品につながります。

しんおう心奥に描いた思考がよいほうにでると、たいりん はな大輪の花を咲かせるでしょう。

占うときも難しい星です。

＊ フィンセント・ファン・ゴッホ 1853-3-30 1890-7-29 [37歳没]

大運は9歳運の逆まわり

丙	乙	癸		牽牛星	天印星	9	甲寅
辰	申	卯	丑	禄存星	玉堂星	19	癸丑
巳	戊		癸	天胡星	玉堂星	29	壬子
	壬		辛			39	辛亥
	庚	乙	己			49	庚戌

ゴッホは自分の<sup>じだ</sup>耳朶を切り落としています。

絵の具を買うお金もなく、<sup>すさ</sup>凄まじい<sup>い</sup>生き<sup>ざま</sup>様です。

【初年】 30回目【十大主星特性②】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 31回目【十大主星特性③】 禄存星・司禄星